

小 学 校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

外国語活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	目指す児童像及び研究の仮説	1
III	研究の視点	2
IV	研究構想図	4
V	研究方法	5
VI	研究の内容	6
VII	成果検証	21
VIII	研究の成果と課題	22

研究主題

自分の考えや気持ちを伝え合うことのできる児童の育成 ～対話を続けるための工夫を通して～

I 研究主題設定の理由

小学校では、平成 23 年度から高学年において外国語活動が導入され、その充実により、児童の高い学習意欲、中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった成果が認められている。一方で、「音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない」、「日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係・構造の学習において課題がある」、「高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められる」ことなどが課題として指摘されている。また、小学校から各学校段階における授業改善による成果が認められるものの、学年が上がるに従って児童・生徒の学習意欲に課題が生じるといった状況や、学校間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている。

こうした成果と課題を踏まえ、今回の学習指導要領の改訂では、小学校中学年から外国語活動を導入し、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることが重視されている。

昨年度の教育研究員は、「外国語を用いてコミュニケーションを図ることを「楽しむ」児童の育成～やり取りに自信をもたせる工夫を通して～」という研究主題を設定し、外国語を用いたコミュニケーションにおける適切な反応の仕方を児童に指導することや、振り返りを生かした個別指導などの授業改善を行うことにより、外国語を用いた友達とのやり取りに自信をもたせ、コミュニケーションを楽しませることにつながる成果を得た。しかし、自分の思いや考えを積極的に伝えようとする態度につなげていくことについては課題が残ると指摘している。そこで、今年度は、「自分の考えや気持ちを伝え合うことのできる児童の育成」を研究主題とし、対話を続けるための工夫を通してコミュニケーション活動の充実を図り、共通テーマ「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を図ることとした。

II 目指す児童像及び研究の仮説

1 目指す児童像

今回の学習指導要領改訂では、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力が、①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識及び技能」の習得）」、②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理され、育成を目指す資質・能力が明確に示された。

本研究は、特に、②「理解していること・できることをどう使うか」に焦点を当て、その単元で目標とする英語表現や言語材料を使って、自分の考えや気持ちを伝えようとする態度を育てることを目指している。加えて、簡単な語彙や基本的な表現等の既習事項を使い、相づちを打ったり、自発的に相手に質問を返したりできることで会話が続く楽しさや英語を使うことができたという成功体験につなげたいと考え、自分の考えや気持ちを「伝える」だけでなく、「伝え合う」ことのできる児童の育成を目指した。

目指す児童像：自分の考えや気持ちを伝え合うことのできる児童

2 研究の仮説

自分の気持ちや考えを伝え合うためには、児童自身が学ぶ意味を理解した上で、伝えたいと思うことを明らかにすることや、「使える」英語を身に付けることが必要である。

そのためには、単元終末段階の児童に望む具体的な姿のイメージをもち、実態に応じて単元を見通した課題設定をする必要がある。また、音声を中心にして扱った簡単な語句や基本的な表現などを、読んだり書いたりする言語活動の中で工夫して繰り返し扱ったりすることで、より深い理解を促し、表現の運用能力を高めていく必要がある。

そこで、単元を通じて「何ができるようになるか」、単元のゴールを明確化し、そのために何をするのか、一単位時間ごとのゴールを設定し、それを教師と児童が共有できるようにした。そして、既習事項や慣用表現を活用してコミュニケーションを図る場面を設定するなど、表現に触れる活動の工夫をすることによって、児童は目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考え等を形成・整理・再構築することができ、自信をもってやり取りができると考えた。また、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について、細かな段階を踏んで読んだり書いたりすることに慣れ親しませる工夫をすることによって自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるようになると考えた。

以上のことより、次の仮説を設定した。

既習事項や慣用表現を繰り返し聞いたり話したりする場面を設定するなど、対話を続けるための工夫をすることによって、児童は自信をもってやり取りができ、自分の考えや気持ちを伝え合うだろう。

Ⅲ 研究の視点

1 単元及び一単位時間のゴールの明確化

単元を通じて「何ができるようになるか」という単元のゴールを明確化し、そのために何をするのか、一単位時間ごとのゴールを設定し、教師と児童が共有できるようにした。具体的には、その単元で扱う言語材料をどのようにインプットしていくか、また、児童が楽しんで取り組める活動でかつ目的を達成するための活動を工夫した。加えて、児童自身も単元のゴールイメージをもてるように、平易な言葉で「何ができるようになるか」を示した「チャレンジカード」を作成した。さらに、振り返りカードを作成し、学習の見通しをもたせる工夫をした。

また、授業の構成については、①Greeting, ②Warming up, ③Today's goal, ④Activity, ⑤Looking back, ⑥Closing を基本としつつ、指導計画に則って工夫を加えることとした。大切にしたいのは、③Today's goal において、児童に本時のめあてをつかませること及び⑤Looking back において、児童に何を学んだのか自己の学習を振り返らせ、学びを積み上げていくことである。そこで、学習の積み上げが分かるポートフォリオを作成させた。

2 対話を引き出すための指導の工夫

自分の考えや気持ちを伝え合うためには、自分の考えたことや、内面で感じていることを伝えるための表現やフレーズ、言い回しなどを聞いて覚え、実際に使ってみなければ活用できるようにはならない。学習で得た知識や技能を蓄積し、新たな場面に出会ったときに、それまでの知識や技能を活用し、対処する力へと結び付けたい。

本研究では、既習表現を繰り返し使用できるようにして定着を図ることや対話の続け方を指導することをねらいとした Small Talk を Warming up の中に入れ、日本語と英語の語順の違い等の気付きを促すようにしたり、児童がこれまでに学習した基本的な表現を繰り返し聞いたり話したりするなどして既習表現を活用させるようにした。そして、繰り返し表現に触れることによって、その規則性への気付き、文構造への気付きなど、言葉の仕組みの理解等を促すようにした。既習表現や慣用表現を場面に応じて使用することにより、学習した英語がここでも使えたという成功体験を重ねさせ、児童に自信を付けさせたい。

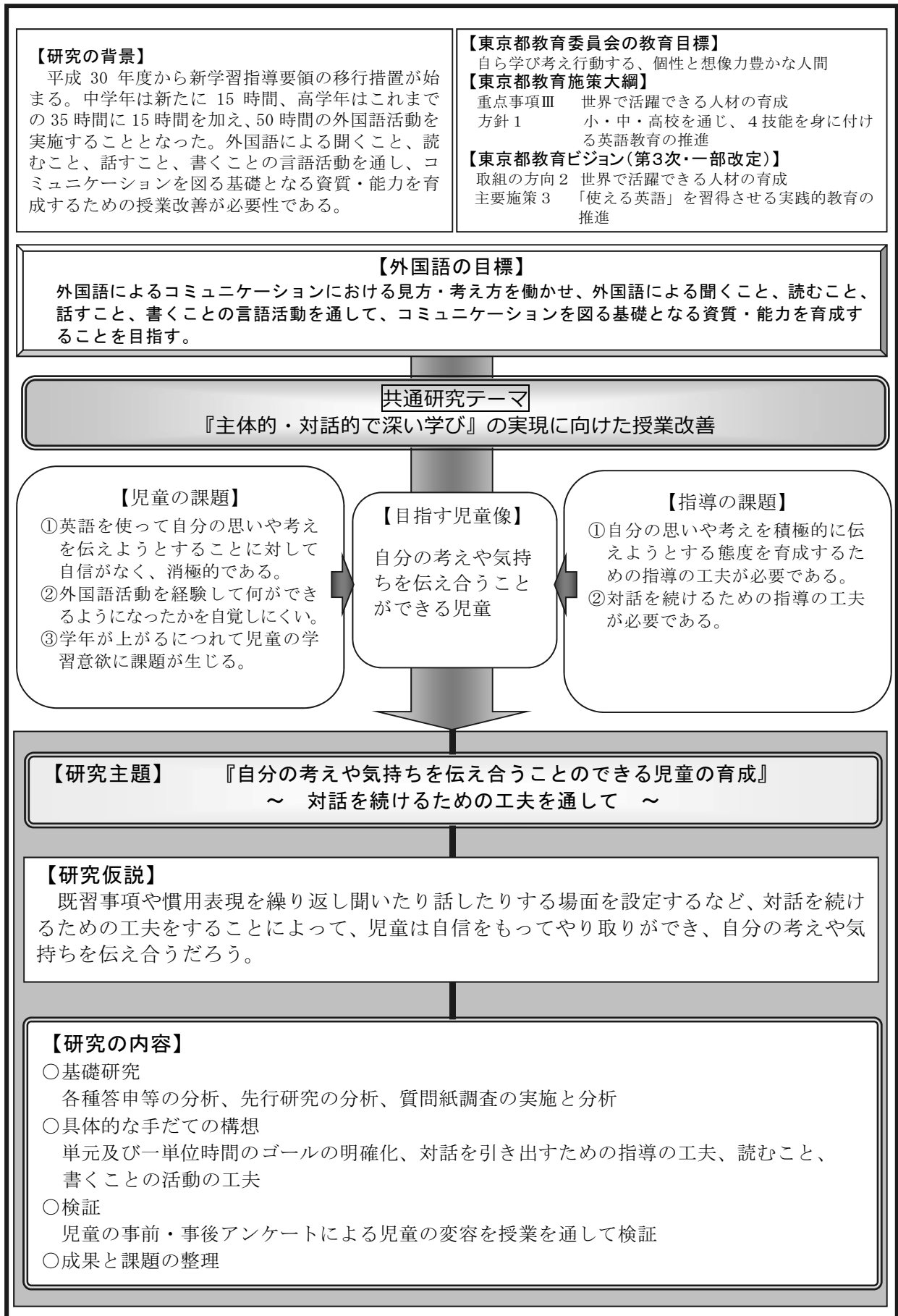
また、“I see.” “Me too.” “That's nice!” などの相づちや “Oh, ...!” など相手の回答を繰り返すなど、コミュニケーションを円滑にする表現が活用できる場面を設定し、スモールステップで繰り返しインプットすることで定着を図り、対話を続けることができるように工夫した。

3 読むこと、書くことの活動の工夫

次年度からの移行措置期間で扱うとされている内容には、「読むこと」、「書くこと」も含まれている。「英語の音声に慣れ親しんだ段階で文字を導入し、「読むこと」、「書くこと」の初歩的な活動を導入することは、内容理解を深め、学習を促す効果がある。」¹とされている。そこで、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んだり書いたりすることに慣れ親しませるとともに、語順を意識しながら書き写したり、自分のことや身近な事柄について例文を用いて書いたりする活動を工夫し、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるようにしたいと考えた。読んだり書いたりする必然性のある活動を工夫し、児童に無理なく、段階的に文字を読んだり書いたりする学習を行っていくための配慮事項や有効な支援について検証した。

¹ 文部科学省（平成 29 年 6 月）「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」

IV 研究構想図



V 研究方法

1 基礎研究

次の方法により外国語活動及び英語教育の現状・方向性の把握、児童の実態把握を行った。

(1) 各種答申等の分析

- ・「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（中央審議会教育課程部会 平成28年8月26日）
- ・幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント、小学校学習指導要領抜粋（平成29年3月）
- ・小学校学習指導要領（平成29年3月31日公示）
- ・新学習指導要領に係る参考資料（文部科学省 平成29年6月12日）
- ・小学校学習指導要領解説外国語活動編（平成29年6月）
- ・小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省 平成29年6月30日）
- ・「小学校及び中学校の学習指導要領等に関する移行措置並びに移行期間中における学習指導等について（通知）」（平成29年7月7日 文部科学省）
- ・新教材説明会配布資料（平成29年9月21日 文部科学省）、外国語教育における新学習指導要領の円滑な実施に向けた移行措置（案）

(2) 先行研究の分析

- ・過去の教育研究員小学校外国語活動部会が実施したアンケートの分析

(3) 質問紙調査の実施と分析

- ・教育研究員が授業を行う学級児童を対象にした質問紙調査による課題分析

2 実践研究

基礎研究を踏まえ、研究の視点をしぼり、それぞれについて具体的な手だてを構想した。また、その効果を検証するための授業を実施した。

3 研究のまとめ

検証授業の実施後に、児童のアンケート結果や振り返りカード、児童の活動等から授業の分析を行い、研究の仮説及び手だての有効性について考察した。また、3回の検証授業における成果と課題を踏まえ、「自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童」の育成に向けた具体的な手だてをまとめた。

VI 研究の内容

【検証授業1】(第5学年)

1 単元名 What do you like? 「友だちにインタビューしよう」

文部科学省 小学校外国語活動教材 Hi, friends! 1 Lesson 5

2 単元の目標

- ・好きなものについて積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- ・日本語と英語の音の違いに気付く。
(言語や文化に関する気付き)

3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。 ②友達の答えた内容に応じて、対話を続けようとしている。	①色や形を聞いたり言ったりしている。 ②好きなものは何かを尋ねたり答えたりしている。	①日本語と英語の音の違いに気付いている。

4 研究主題に迫るための手だて

本単元では、“What ... do you like?” “I like” などの表現に慣れ親しみ、積極的に好きなものについて尋ねたり答えたりしながら、相手を意識してコミュニケーションを図ることをねらいにしている。研究主題に迫るため、以下の手だてについて検証した。

(1) 単元及び一単位時間のゴールの明確化

単元のゴールイメージとして、相手の好みを聞き、その好みに合ったTシャツを作る活動を設定し、児童に予め明示した。また、単元を通して「何ができるようになるか」を示した「チャレンジカード」を作成し、教師と児童が共有できるようにした。

(2) 対話を引き出すための指導の工夫

毎時間、Small Talk を取り入れ、既習表現を示したり、対話の続け方を示したりするとともに、相手に聞きたいことを英語で尋ねたり答えたりする活動を設定し、既習表現を繰り返し使用できるようにした。

(3) 読むこと、書くことの活動の工夫

児童の負担感を考えて毎時間少しずつ慣れ親しませるよう活動内容を工夫するとともに、目的をもって書くことができるよう、活動に合わせ、ワークシートを作成した。

5 単元の指導計画と評価計画

時	目標	学習活動	評価規準
1	・日本語と英語の音声の違いに気付くとともに、色の言い方に慣れ親しむ。	・ Small Talk Do you like...? Yes, I do. / No, I don't. ・ キーワードゲーム	イ① ウ①


	<ul style="list-style-type: none"> 好きな色を尋ねる英語での言い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ビンゴゲーム 色の単語をなぞる。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と英語の音声の違いに気付くとともに、形の言い方に慣れ親しむ。 好きな形を尋ねる英語での言い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk What ... do you like? I like かるた 仲間集め I like の単語のみなぞる。 	イ① ウ①
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> 好きなものは何かを尋ねたり答えたりして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk What ... do you like? I like 友達のTシャツを作ろう ペアの友達の好みを聞いて、Tシャツを一緒に作る。 	ア① イ②
4	<ul style="list-style-type: none"> インタビューを通して、友達と積極的に関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk What ... do you like? I like Tシャツ当てクイズ インタビューゲーム 	ア②


【本時で使用したワークシート】


Lesson 5 What do you like?


Name ()


★ 友達の好きな色や形を聞いて
お気に入りのTシャツを作ってプレゼントしよう。



red


blue


green


yellow


black


purple

聞き取ったことを下の表に書こう！

Shape			
Color			
How many?			

6 本時（第3時／4時間）

本時の目標

好きなものは何かを尋ねたり答えたりして、友達の好みに合ったTシャツを作ろうとする。

	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (7分)	<p>Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 <p>Warming up</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk ・ 色・形の言い方を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・ 既習表現を使って友達とやり取りを行うよう促す。 What ... do you like? I like ・ 本時で使う色と形の言い方の練習を行い、本時の内容にスムーズに入れるようにする。
展開 (30分)	<p>Today's goal</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてと流れを児童に確認する。
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">友だちのTシャツを作ろう</p> <p>Activity</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デモンストレーションを見る。 ・ ペアの友達にインタビューし、聞き取ったことをワークシート(聞き取りメモ)に記入する。 ※聞き取りメモの記入方法 形→イラスト(○□☆など) 色→薄く書かれた単語(色のみ)をなぞる。 数→数字 	<ul style="list-style-type: none"> ・ やり方をデモンストレーションで示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A: What shape do you like? B: I like star. A: Oh, star! What color do you like? B: I like yellow. A: OK! How many? B: Two. A: OK!</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの好きな色と形を聞き取ったら、Tシャツシートに貼り付ける形を取りに行くように伝える。 ・ 3回までやり取りできることを伝える。 ・ 貼り付ける準備ができたなら、友達にどこに貼ってほしいかを聞きながら貼り付けるよう指示する。 <p>◎好きな色や形について、積極的に尋ねたり答えたりしようとしている(行動観察・振り返りカード)。 ◎好きな色や形は何かを尋ね、友達の好みに合ったTシャツを作ろうとしている(行動観察・ワークシート・振り返りカード)。</p>
まとめ (8分)	<p>Looking back</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動を振り返る。 ・ 振り返りカードに記入する。 ・ 数名の児童が発表する。 <p>Closing</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいに照らして児童を評価する。 (例) 友達の好きな色や形を聞いてTシャツを作ることができましたか。 ・ 挨拶をする。

★Challenge Card★

5- Name()

できたところに印を付けよう！

色や形の英語を
聞いて意味が
わかった。

色や形の英語を
見て意味が
わかった。

色を表す英語を
なぞって書く
ことができた。

色を三つ
英語で言えた。

好きな色や形を
英語で尋ねたり
答えたりする
ことができた。

形を三つ
英語で言えた。



※太いわくは、先生に見てもらおう。空らんには、自分でできたことを書こう

【検証授業2】(第6学年)

1 単元名 My Summer Vacation 「夏休みの思い出」

文部科学省 新学習指導要領対応 小学校外国語教材 “We Can! 2” Unit 5

2 単元の目標

- ・すすんで夏休みの思い出について伝え合おうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などを表す表現に慣れ親しむ。また、夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、例を参考に書いたりすることに慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- ・英語の現在形と過去形の違いや、日本語と英語の語順の違いに気付く。
(言語や文化に関する気付き)

3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①他者に配慮しながら、夏休みの思い出について伝え合おうとしている。 ②友達の答えた内容に応じて、対話を続けようとしている。	①夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などの表現を言ったり聞いたりしている。 ②慣れ親しんだ、簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を読んだり書いたりしている。	①夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などの現在の言い方と過去の言い方が違うことに気付いている。 ②夏休みの思い出を伝える表現が、日本語の語順と違うことに気付いている。

4 研究主題に迫るための手だて

本単元では、過去形について知るとともに、夏休みに行った場所や、そこで楽しんだこと及びそれらについて書かれたものを読もうとしたり、話したことを書こうとしたりすることを目標としている。研究主題に迫るため、以下の手だてについて検証した。

(1) 単元及び一単位時間のゴールの明確化

夏休みの思い出について伝え合う言語活動に取り組みせながら過去形を無理なく自然に活用できるようにした。なお、過去形が初出であることから、児童にとって難易度が高くないよう、取り扱う過去に関する言語材料は、went, ate, enjoyed, was に限定した。また、何を学んだのか、児童が自己の学習を振り返り、学びを積み上げていくことができるよう、振り返りカードを工夫した。

(2) 対話を引き出すための指導の工夫

導入に Small Talk を取り入れ、既習表現に繰り返し触れさせるとともに、やり取りが一往復で終わらないように、相づちや繰り返しなどを入れさせ、コミュニケーション活動を行わせた。

(3) 読むこと、書くことの活動の工夫

「読むこと」「書くこと」については、児童の負担感を考え、また、毎時間少しずつ慣れ親しむことが大切であることから、ワークシートを工夫し、モジュールも組み合わせつつ、読む活動、書く活動を設定した。

5 単元の指導計画と評価計画

時	目標	学習活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに行った場所を言ったり聞いたりする。 単元の見通しをもち、目標を立てるなど意欲的に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk (夏の食べ物) 担任と ALT の夏休みの思い出を聞く。 ポンティング・ビンゴゲームをする。(I went to) 単元の見通しをもち、単元の目標を立てる。 	ウ① イ①
モジュール	<ul style="list-style-type: none"> 行った場所について、言ったり聞いたりする。 慣れ親しんだ言葉を書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> チャンツ、サークルリレーゲームをする。 音声を聞いて繰り返し読むとともにワードボックスから言葉を選んで書き写す。(I went to) 	ウ②
2	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに行った場所や感想などの話を聞いている。 過去の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を言ったり聞いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk (週末行った場所) 担任と ALT が夏休みに行った場所と感想を話すのを聞く。 ポインティング チャンツ、サークルリレーゲームをする。(I went It was) 	ウ① イ①
モジュール	<ul style="list-style-type: none"> 行った場所と感想について、言ったり聞いたりする。 慣れ親しんだ言葉を選んで書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> チャンツ、サークルリレーゲームをする。 音声を聞いて繰り返し読むとともにワードボックスから言葉を選んで書き写す。(It was) 	ウ②
3	<ul style="list-style-type: none"> 過去の表現が分かり、夏休みに食べた物とその感想を言ったり聞いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk (週末行った場所、感想) 担任と ALT が夏休みに食べた物と感想を話すのを聞く。 ポインティング (I ate It was) リスニング (音声を数回聞いて、内容に合うように登場人物と絵を線で結ぶ。) 	ウ① イ①
モジュール	<ul style="list-style-type: none"> 食べた物、感想について、言ったり聞いたりする。 慣れ親しんだ言葉を選んで書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> チャンツ、サークルリレーゲームをする。 音声を聞いて繰り返し読むとともにワードボックスから言葉を選んで書き写す。(I ate It was) 	ウ②
4	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに楽しんだこととその感想を言ったり聞いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> Small Talk (昨日食べた物、感想) 担任と ALT が夏休みに楽しんだことについて話すのを聞く。 リスニング (音声を数回聞いて、内容に合うように登場人物と絵を線で結ぶ。) ストーリー作りをする。(I enjoyed-ing. It was) 	ウ① イ①
モジュール	<ul style="list-style-type: none"> 楽しんだこと、感想について言ったり聞いたりする。 慣れ親しんだ言葉を選んで書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> チャンツ、サークルリレーゲームをする。 音声を聞いて繰り返し読むとともにワードボックスから言葉を選んで書き写す。(I enjoyed-ing.) 	ウ②
5	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出を伝え合おうとする。 自分の夏休みの思い出について、今まで書き写してきた文を参考に、語順を意識しながら書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出について、前時までに書き写したり書いたりした文を読み返し、ペアで伝え合う。 これまでに書いた文をもとに、夏休みの思い出について清書する。(今回は、プレゼンテーションソフトを使う。) 	ア① イ②
モジュール	<ul style="list-style-type: none"> 自分の夏休みの思い出について、今まで書き写してきた文を参考に、語順を意識しながら書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに書いた文を繰り返し読むとともにワードボックスから言葉を選んで書き写し、プレゼン資料を作成する。 	イ②
6 本時	<ul style="list-style-type: none"> 他者に配慮しながら、おすすめの場所や、楽しんだこと、食べたもの、その感想について伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> チャンツ、サークルリレーゲームをする。 Small Talk (週末行った場所、食べた物、感想など) 来年の夏休みにお勧めしたい場所について伝え合う。 	ア②

6 本時（6／6）

本時の目標

他者に配慮しながら、おすすめの場所や、楽しんだこと、食べたもの、その感想などについて伝え合おうとする。

	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (5分)	<p>Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 <p>Warming up</p> <ul style="list-style-type: none"> Small Talk <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I went to I ate</p> <p>I enjoyed I was</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 話題を「夏休みの思い出」から「週末の思い出」とし、似た話題について繰り返し対話することで過去形の表現の仕方が十分に分かり、聞いたり言ったりできるようにする。
展開 (35分)	<p>Today's goal</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>来年の夏休みにおすすめしたい場所を紹介しよう。</p> </div> <p>Activity</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで、来年の夏休みにおすすめしたい場所について伝え合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I went to the sea. It was fun.</p> <p>I went to the park. It was nice.</p> <p>I ate pizza. It was delicious.</p> <p>I enjoyed fishing.</p> <p>It was exciting.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 過ごしたいと思ってもらえるようにおすすめの場所について話すという目的を意識させる。 聞き手が理解できているかを確認し、ゆっくり話したり繰り返し話したりするようにさせる。また、“Do you like -ing?” や “Do you know ...?” など、既習表現を積極的に使用させ、相手意識をもって話すことができるようにする。 聞き手は、感想や質問を、“I want to go to” “I want to eat it.” など、既習表現を使って伝えることができるようにする。 活動の途中で、既習表現を積極的に使い、相手意識をもって伝え合っているペアを紹介し、他者に配慮した伝え合いを意識させるようにする。 活動後に、誰のおすすめの場所に行ってみたいと思ったかを発表させる。 <p>◎友達の答えた内容に応じて、対話を続けようとしている。(発表・行動観察・振り返りカード)</p>
まとめ (5分)	<p>Looking back</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードに記入する。 <p>Closing</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに照らして児童を評価する。 挨拶をする。

【ワークシート】

形式の統一（右側：書く活動）

- ・「なぞる」→「書き写す」→「選んで書く」の3段階で行った。
- ・「選んで書く」は、自分自身の夏休みのことを記入した。

My Summer Vacation ②

'It was ○○.'

beautiful cool

fun exciting interesting boring hard

good nice → great → wonderful

Name _____

①読んでみながら、書き写しましょう

beautiful It was beautiful.

↓

good It was good.

↓

nice It was nice.

↓

exciting It was exciting.

↓

②自分が夏休みに行ったところと感想を書きましょう。

イラストの工夫

- ・感想を伝える形容詞の学習では、イラストや配置を工夫し、ALT のジェスチャーを交えて説明した。

My Summer Vacation ③

'I ate ○○.'

curry and rice fried chicken hamburger cake grapefruit

'It was ○○.'

spicy oily delicious sweet salty delicious oily sweet

Saki Satoshi Kenta

sea zoo amusement park movie theater

French fries donuts popcorn boxed lunch

salty delicious oily sweet

Name _____

①読んでみながら、書き写しましょう

hamburger I ate a hamburger.

↓

cake I ate a cake.

↓

grapefruit I ate a grapefruit.

↓

リスニング

- ・第3、4時には、リスニングを取り入れ、内容に合うように登場人物と絵を線で結ぶ活動を行った。この活動は、自分自身の夏休みの思い出の発表原稿を作る活動につながった。

【振り返りカードの例】

Lesson5 My Summer Vacation (name

)6年

date	/ ()①	super	good	soso
夏休みに行った場所を聞き取ったり言ったりすることができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
英語を使った活動に、自分からすすんで取り組みましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
友達の言った場所を聞いて、知っている言葉で相づちをうつことができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
感想				

date	/ ()②	super	good	soso
夏休みに行った場所や感想を、聞き取ったり言ったりすることができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
英語を使った活動に、自分からすすんで取り組みましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
友達が言った場所を聞いて、自分も行きたいかどうかを伝えることができましたか？		(^0^)	(^_^)	(-_-)
感想				

date	/ ()③	super	good	soso
夏休みに食べた物や感想を、聞き取ったり言ったりすることができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
英語を使った活動に、自分からすすんで取り組みましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
友達が食べた物を聞いて、自分が好きかどうかを伝えることができましたか？		(^0^)	(^_^)	(-_-)
感想				

date	/ ()④	super	good	soso
夏休みに楽しんだことや感想を、聞き取ったり言ったりすることができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
英語を使った活動に、自分からすすんで取り組みましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
昨日食べた物について、知っている英語をつかって伝え合うことができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
感想				

date	/ ()⑤	super	good	soso
夏休みの思い出について聞き取ることができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
英語を使った活動に、自分からすすんで取り組みましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
書き写してきた文を参考に、おすすめの場所についての文を組み立てることができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
感想				

date	/ ()⑥	super	good	soso
友達と、おすすめの場所について伝え合うことができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
英語を使った活動に、自分からすすんで取り組みましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
友達の話聞いて、知っている言葉で質問や感想を言うことができましたか。		(^0^)	(^_^)	(-_-)
感想				

【検証授業3】(第6学年)

1 単元名 What do you want to watch?

「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦計画を立てよう」

文部科学省 新学習指導要領対応 小学校外国語教材 “We Can! 2” Unit 6

2 単元の目標

- ・すすんでオリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由などについて伝え合おうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・オリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由についての表現と尋ね方に慣れ親しむ。また、競技名や基本的な表現を推測しながら読んだり、例文を参考に書いたりすることに慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
- ・日本語と英語の競技名の音の違いなどに気付く。(言語や文化に関する気付き)

3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①相手を意識し、すすんでオリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由などについて伝え合おうとしている。 ②友達の答えた内容に応じて、対話を続けようとしている。	①オリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由についての表現と尋ね方に慣れ親しんでいる。 ②慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を読んだり書いたりしている。	①日本語と英語の競技名の音の違いに気付いている。 ②オリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由などについての表現が、日本語の語順と違うことに気付いている。

4 研究主題に迫るための手だて

本単元では、数年後に迫ったオリンピック・パラリンピックで何の競技が見たいのか自分の考えや気持ちを伝え合うことをねらいとしている。研究主題に迫るため、以下の手だてについて検証した。

(1) 単元及び一単位時間のゴールの明確化

単元を通して「何ができるようになるか」を示した「チャレンジカード」を作成し、教師と児童が共有できるようにした。

(2) 対話を引き出すための指導の工夫

単に見たい競技を聞き合うだけではなく、自分の考えや思いを伝え合えるようにするために、既習表現を使った言語の働き「コミュニケーションを円滑にする」、「気持ちを伝える」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」を活用する場面を取り入れ、基本的な表現を繰り返し聞いたり話したりできるようにした。また、**Warming up** の中で既習表現を使ったやり取りを児童同士でさせるなど、聞いて覚えたことを実際に使える場を設定した。

(3) 読むこと、書くことの活動の工夫

英語を聞いたり話したりする活動を十分に行った上で、読んだり書いたりする活動を段階的に取り入れ、毎時間少しずつ書くことができるよう、ワークシートを工夫して作成した。

本単元で活用できる既習表現や言語の働き	
「コミュニケーションを円滑にする」 ・挨拶や呼び掛け Hi, Hello, Good morning, Excuse me. ・相づち Oh, I see. Right. ・聞き直す Sorry? Tennis? On TV? ・繰り返す Oh, tennis! 「気持ちを伝える」 Thank you. Great. Nice. Wow. Oh.	「考えや意図を伝える」 That's good. OK. Me, too. Let's go! I like I can play ... well. 「相手の行動を促す」 Do you like ...? Let's watch together. When is the game? Will he win? Can you...?

5 単元の指導計画と評価計画

時	目標	学習活動	評価規準
1	・オリンピック・パラリンピックの競技名を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk “What sports do you like?” の表現を活用して数分間対話する。担任⇄児童 ・単元のゴールを知る。 ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の種目を知る。 ・あまり知られていない種目や選手のエピソードなどの映像を見る。 	イ① ウ①
2	<ul style="list-style-type: none"> ・見たい競技について尋ねたり、答えたりする。 ・見たい競技の単語を読み、書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見たい競技について尋ねたり、答えたりする表現の練習をする。 ・インタビュー活動をする。 ・見たい競技の単語を読み、書き写す。 	ア① イ②
3	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな競技が見たいのかを尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・どんな競技が見たいのかを尋ねる表現を読み、答えを書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk “Do you want to watch ...?” を活用して数分間対話する。担任⇄児童 ・どんな競技が見たいのかを尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・班の中でインタビューをする。 ・どんな競技が見たいのかを尋ねる表現を読み、答えを書き写す。 ・その競技を見たい理由を付け加える。 	ア① イ②
4	・どんな競技が見たいのかとその理由を伝える言い方に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk “What sports do you want to watch?” を活用して数分間対話する。担任⇄児童 ・見に行きたい競技とその理由を考える。 ・前時の振り返りを通して、どんな競技が見たいのかを尋ねたり答えたりする表現を確認する。また、見に行きたい理由の言い方を知る。 ・他にどのような表現を使って会話をつなげていけるか考え共有する。 ・どんな競技が見たいのかを尋ねる表現を読み、書き写す。 	イ① ウ②
5 本時	・相手を意識し、オリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由などについて聞き合い既習表現を取り入れながら伝え合おうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りを通して、どんな競技が見たいのかを尋ねる表現や見たい競技の理由を尋ねたり答えたりする表現を確認する。 ・ Small Talk “What sports do you want to watch?” を活用して数分間対話する。担任⇄児童 ・インタビュー活動 ・誰とどんな競技を見たいのかを書き写す。 	ア② イ①
6	・観戦計画を友達に紹介し合おうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk “What sports do you want to watch?” を活用して数分間対話する。児童⇄児童 ・前時のインタビュー結果（アンケート結果）を基にした観戦計画を書く。 ・観戦計画を発表する。 	ア②

6 本時（5 / 6）

本時の目標

相手を意識し、オリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由などについて聞き合い、既習表現を取り入れながら伝え合おうとする。

	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (10分)	<p>Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 <p>Warming up</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習表現を振り返る。 ・前時の振り返り ・Small Talk 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した表現を教室内に掲示し、いつでも振り返られるようにする。 ・What sports do you want to watch?を活用して数分間対話する。担任⇄児童
展開 (30分)	<p>Today's goal</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 <p style="text-align: center;">東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦計画をたてよう！</p> <p>Activity</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーションを見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>やり取りの例</p> <p>S1: What sports do you want to watch? S2: I want to watch football on Tuesday. S1: That's nice. Why? S2: Because I like football. S1: I like football too. S2: What sports do you want to watch? S1: I want to watch baseball on Wednesday. S2: Baseball! Can you play baseball? S2: Yes. I can play baseball well. Let's watch baseball together. S1: Yes, let's!</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・誰とどんな競技を見たいのかを書き写す。 I want to watch football with Takashi and Hiroshi. ・観戦予定を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とやり取りしながら、いつ、誰と、何を観戦するのか計画を立て、ワークシートに記入する。 ・やり取りの流れが分かる掲示物を使って、やり取りの流れを確認する。 ◎オリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由についての表現と尋ね方に慣れ親しんでいる。(行動観察・振り返りカード) ◎友達の答えた内容に応じて、対話を続けようとしている。(行動観察・振り返りカード) ・書き写すことができるように、必要な表現や単語を掲示したり、ワークシートに記載したりしておく。
まとめ (5分)	<p>Looking back</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに自己評価をする。 <p>Closing</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカード記入後、よかった点について発言させ、次時への意欲につなげる。

【板書例】

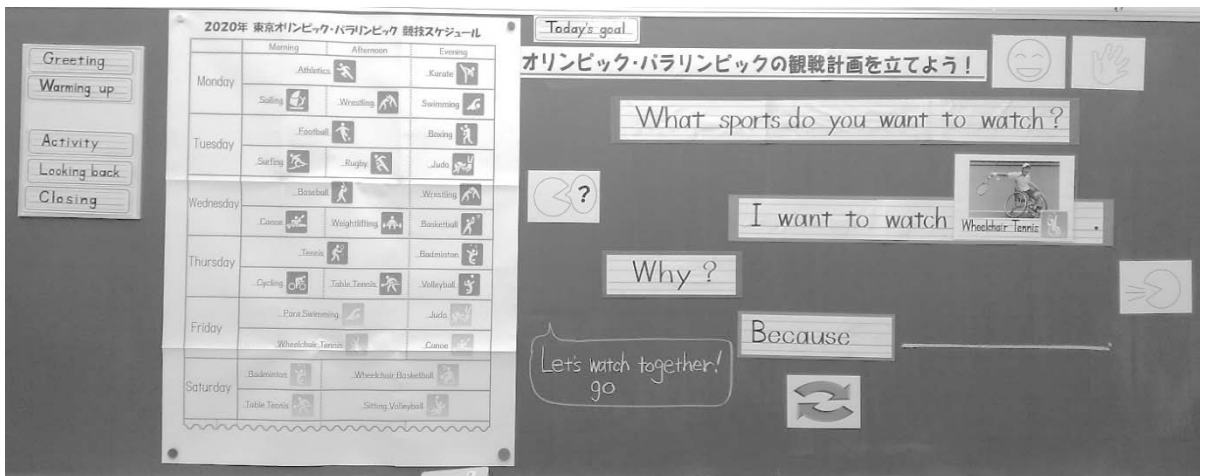
第2時



第3時



第5時



※掲示物等は、文部科学省 新学習指導要領対応 小学校外国語教材 “We Can! 2” より作成

【ワークシート例】

What sports do you want to watch?

Name _____

2020年 東京オリンピック・パラリンピックの観戦計画を立てよう!!

競技一覧

Sailing 	Wrestling 	Canoe 	Karate 
Rugby 	Athletics 	Judo 	Football 
Boxing 	Swimming 	Surfing 	Baseball 
Cycling 	Tennis 	Basketball 	
Table Tennis 	Volleyball 	Weightlifting 	
Badminton 	Table Tennis 	Badminton 	
Para Swimming 	Canoe 	Wheelchair Tennis 	
Wheelchair Basketball 	Sitting Volleyball 	Judo 	

2時間目 興味のある競技の名前を書こう!!

What sports do you want to watch?

Name _____

2020年 東京オリンピック・パラリンピックの観戦計画を立てよう!!

3時間目 見たい競技を聞き合おう!

What sports do you want to watch? _____



読んでから、書き写そう!

I want to watch Rugby.

↓

自分の好きな競技で書いてみよう!

競技一覧

Sailing 	Wrestling 	Canoe 	Karate 
Rugby 	Athletics 	Judo 	Football 
Boxing 	Swimming 	Surfing 	Baseball 
Cycling 	Tennis 	Basketball 	
Table Tennis 	Volleyball 	Weightlifting 	
Badminton 	Table Tennis 	Badminton 	
Para Swimming 	Canoe 	Wheelchair Tennis 	
Wheelchair Basketball 	Sitting Volleyball 	Judo 	

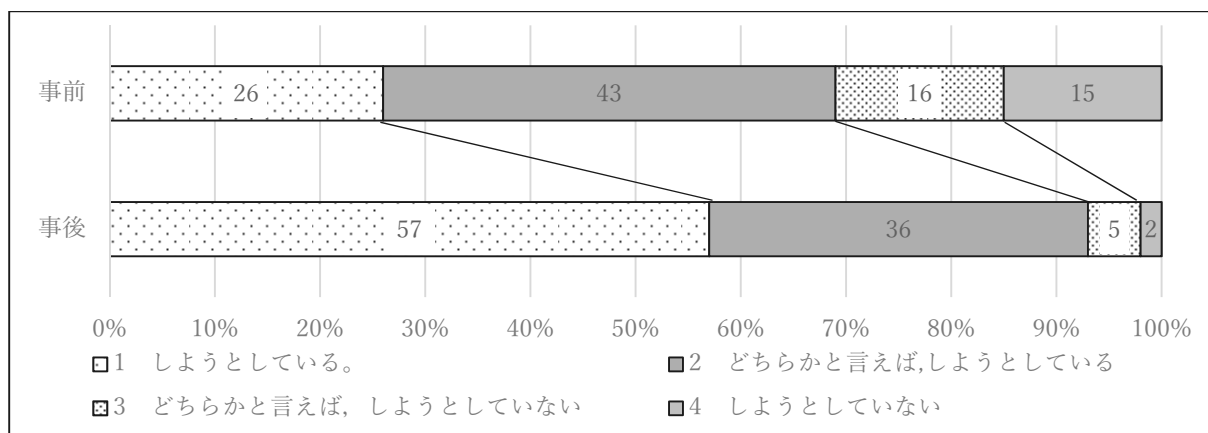
※ワークシートは、文部科学省 新学習指導要領対応 小学校外国語教材 “We Can! 2” より作成

VII 成果検証

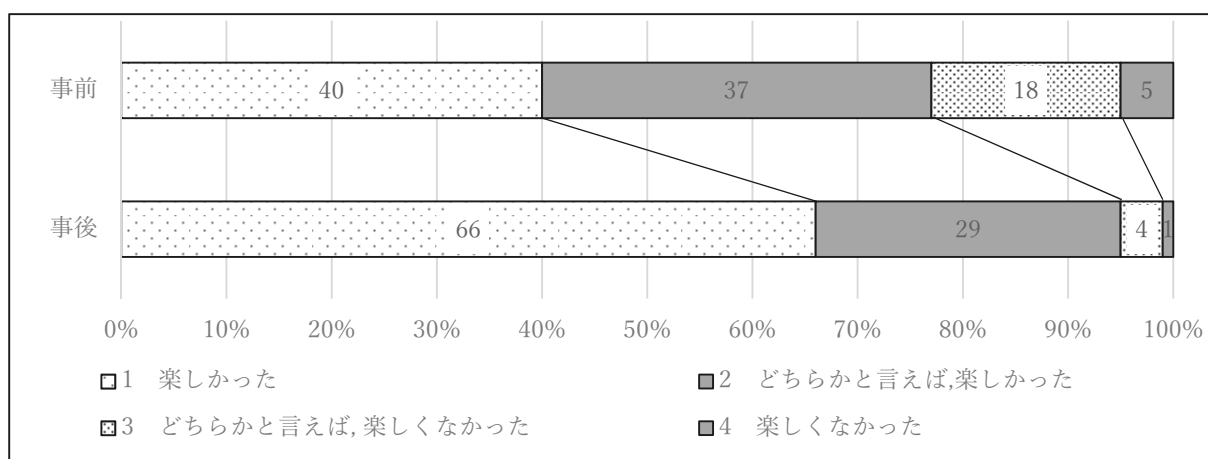
1 事前・事後アンケートの結果

本部会教育研究員の所属校において、検証授業を受けた児童 336 名を対象とし、単元指導前と指導後にアンケートを行った。結果は以下のとおりである。

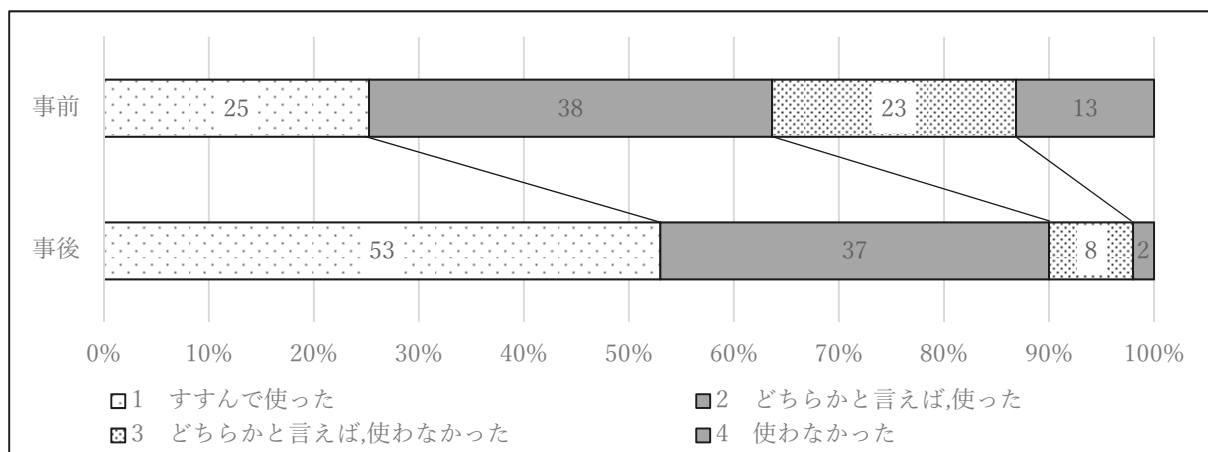
質問 1 英語を使って、自分の気持ちや考えを友達や先生に積極的に伝えようとしていますか。



質問 2 英語を使って、自分の気持ちや考えを友達や先生に伝えるのは楽しいですか。



質問 5 前に習った英語をすすんで使っていますか。



2 事前・事後アンケート結果の分析

(1) 質問1 「英語を使って、自分の気持ちや考えを友達や先生に積極的に伝えようとしていますか。」

肯定的な回答（「しようとしている」、「どちらかと言えば、しようとしている」）をした児童が24%増え、93%となったことから、児童が意欲的に英語を使おうとする意識が高くなったことが分かる。授業で単元のゴールや活動の目的を明確にしたことにより、何をどのように相手に伝えるのが明らかになり、自信をもって英語で相手に気持ちや考えを伝えようとしたことがうかがえる。

(2) 質問2 「英語を使って、自分の気持ちや考えを友達や先生に伝えるのは楽しいですか。」

肯定的な回答をした児童が18%増え、95%となり、理由として、「自分の英語が通じてうれしかったから。」「英語を話せるようになりたいから。」「友達や先生が自分の気持ちや考えに共感してくれたから。」を挙げている。自分の英語が通じたという喜びを味わわせ、成功体験をさせることで、児童にもっと英語を話したいという気持ちが芽生えたのではないかと考えられる。また、定型文にとらわれない会話でのリアクションを使えるようにしたことで、より自然に相手が出なずいてくれたり、褒めてくれたりして、対話をする楽しさを味わわせることができたことが分かる。さらに、「読むこと」や「書くこと」を学習に取り入れたことで、文字が目標とする表現を再現することの助けとなり、より理解が深まったために、話す際の自信につながったのではないかと考えられる。

(3) 質問5 「前に習った英語をすすんで使っていますか。」

肯定的な回答をした児童が27%増え、90%となり、否定的な回答した児童は、36%から10%に減少した。児童がこれまで習ってきた英語表現を授業の中で毎時間取り扱ったり、これまでの学習の積み重ねが分かるポートフォリオを作成して復習に役立てたりしたことによる結果だと考えられる。前に習った英語が伝わると楽しいと感じ、覚えたい、忘れたくないという思いやもっと話せるようになりたいという気持ちが児童にも実感できたようである。しかし、否定的な意見の中には、「自信がない」、「英語は使わないから」、「難しいから」という意見もあり、日常生活の中で、英語を聞いたり、文字を見たりする機会があったとしても、授業以外で英語を話す機会がほとんどないため、必要性を感じていないことがうかがえる。ALTや外部支援員等が学校に来る機会を使って、児童に英語でのコミュニケーションを体験させ、実際に英語が通じたという成功体験をさせるなど、「～したい」、「～できるかも」と感じさせる仕組みや仕掛けが重要になると考えられる。

Ⅷ 研究の成果と課題

1 成果

(1) 単元及び一単位時間のゴールの明確化

単元のゴールと一単位時間のゴールを明確にすることで、児童の活動に対する目的意識が高まり、見通しをもって授業に意欲的に取り組む児童が増えた。また、CAN-DOリストの内容に基づき、チャレンジカードを作成し、単元の初めに、児童と教師が学習の到達目標を共有したことは、英語表現や単語等の定着にも有効であった。教師の評価がチャレンジカードに記録として残るので、達成しようという児童の意欲を喚起したり、習得することができた

という自信を児童にもたせたりすることができた。さらに、チャレンジカードを工夫し、児童自身が単元を通してできるようになったことを記入できる欄を設けたことで、児童は「できるようになった」と自分を肯定的に評価し、これが児童の自信につながった。

また、一時間の授業の流れの枠組みを固定化し、明確にすることで、安心して授業に取り組むことのできる児童が増えた。児童が学習の流れを理解していることは、教師の説明時間を減らし、児童の活動時間を確保するなど、授業の質を向上させることにも有効であったと言える。Today's goal でめあてを確認させ、Looking back で、何ができて、何が難しかったかを振り返らせることで、次時への意欲を高めたり、課題意識をもたせたりすることができた。振り返りは児童の発表で終わるのではなく、一人一人が振り返りカードに記入することで、学習のめあてに対する達成度を確認させることができた。加えて、児童が達成したことが何であるかを教師がコメントで明確に伝え、価値付けたことが児童に自信を付けさせたり、課題意識をもたせたりすることに有効であった。さらに、単元の終わりにポートフォリオを作成したことで、何ができるようになったか、児童自身も自己評価することができ、達成感を味わわせたり、次の学習への意欲につながれたりすることができた。こういった学習の積み上げをしていくことが、児童の主體的な学びを促すことに有効であると言える。

(2) 対話を引き出すための指導の工夫

対話を続けるための工夫として、様々なアクションの例を提示し、インプットする活動を繰り返すとともに、gesture, eye contact, smile, clear voice という視点も児童に意識させて活動を行った。その結果、Small Talk や Activity で対話を続けようとする児童の姿が見られた。また、検証授業3回全てにおいて Small Talk を行い、既習表現を繰り返しアウトプットする活動を入れたことで、既習表現の定着が図られ、自然な会話につながった。中には、感想を伝える場面などで、数ある既習表現から自分で伝えたい表現を選択し、発話する児童の姿も見られた（検証授業2より）。これらのことは、事前・事後アンケートにおいて、「前に習った英語をすすんで使っていますか」（質問5）に対して、肯定的な回答をする児童が63%から90%に変容した結果にも表れている。

(3) 読むこと、書くことの活動の工夫

単元の中で、段階的に「読むこと」「書くこと」の活動に取り組むことができるようにした。使用する単語やキーセンテンスを写真やイラストとともに文字表記したものを掲示し、単元の初めは十分に音声で慣れ親しむようにした。音声で十分に慣れ親しんだ単語をなぞる、書き写す、キーセンテンスをなぞる、書き写すというようにスモールステップで段階的に書く活動につなげていくことによって、抵抗感を感じさせずに書かせることができた。また、書かせる内容についても、自分が興味をもったスポーツ、相手の好きな色や形、自分が行った場所など、書く必然性をもたせることによって書く意欲を高めることができた。加えて、ワークシートや黒板に単語の例を提示することで、文字に慣れ親しむ機会を十分に確保することができた。これらのことは、英語で文字を書くことについてどう思うかの質問に対して、「書けるとうれしい」「書けるようになりたい」「書くことでもっと英語が分かるようになる」と肯定的な回答をする児童が77%から85%に増えたアンケート結果にも表れている。

2 課題

(1) コミュニケーションの補助の在り方の研究

単元のキーセンテンスを黒板に掲示することは発話する時のヒントになったが、コミュニケーションの途中で相手ではなく掲示を見ながら話してしまう場面も見られた。学級の実態や習熟の程度に合わせて掲示する量や掲示の仕方を工夫することも必要である。また、やり取りの会話の例を掲示することが理解を助けたり、不安を感じている児童への支援となったりする一方、その例示だけで会話を終えてしまうという面もある。既習表現を使うなどして対話を続けてもよいことを伝え、対話を続けるために使えそうな表現を考えさせたり、デモンストレーションにおいて様々なパターンを見せたりすることによって、更に多様な表現を活用できるのではないかと考える。

(2) 個人差に対応した書く活動の一層の工夫

「書くこと」は現行の学習指導要領には位置付けられていないが、新学習指導要領においては、高学年から発達段階に応じて段階的に文字を「読むこと」及び「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることが求められている。本研究では、「書くこと」の指導をスモールステップで行ったことによって、児童が抵抗感をもたず、意欲をもって書くことができた。しかし、小文字と大文字の指導や、符号についての指導に関して、教師がどの程度指導をするか、今後、中学校との連携をより深め、検討していく必要がある。また、なぞる段階から書き写す段階に入った時につまずきを示す児童も見られたため、個人差に対応した書き写させるためのより有効な手だてについては、一層の工夫が必要である。

事後アンケートにおいて「書くことが難しかった」と回答した児童が13%おり、学級内でも個人差がある。このことは、ある児童にとっては音声での慣れ親しみの時間が十分ではなく、まだよく知っている文字、読み慣れた文字ではない段階である、又は文字への慣れ親しみは十分だが、書き慣れる時間が不足していたという可能性がある。個人差に対応し、丁寧に、段階を踏んで書かせるタイミングと書く分量のバランスを考慮しつつ、文字に興味をもたせるよう工夫をする必要がある。一方で、もっと書きたいという児童もいることから、個の実態に合わせ、意欲を低下させないための工夫も必要である。

加えて、児童が文字を書きたくなる場面設定を工夫した指導計画を立てることと、より効率よく書かせるためのワークシートの開発を今後更に進めていく必要がある。

平成 29 年度 教育研究員名簿

小学校・外国語活動

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立お茶の水小学校	主任教諭	市川 麻代美
品川区立御殿山小学校	教 諭	竹田 佐和子
目黒区立田道小学校	主任教諭	田島 晶子
中野区立みなみの小学校	主任教諭	青木 貴子
杉並区立高井戸第二小学校	主任教諭	◎ 渡邊 祐子
葛飾区立小松南小学校	主幹教諭	青木 隆
小平市立小平第五小学校	教 諭	堀 裕 樹
東村山市立南台小学校	主任教諭	鈴木 明子
清瀬市立清明小学校	主任教諭	○ 西山 理紗

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 田中 純子

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

小学校・外国語活動

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。